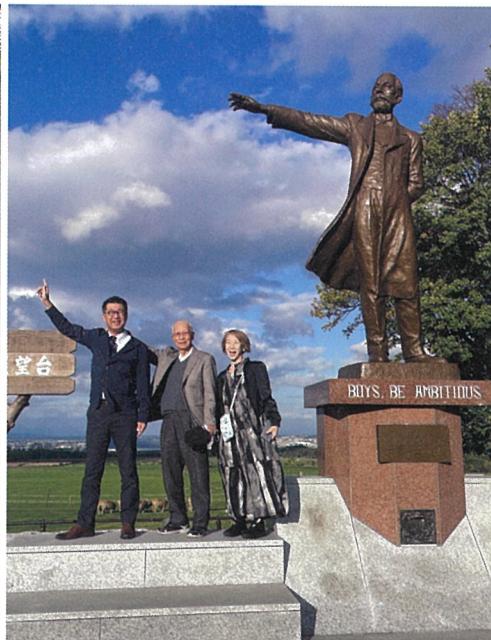
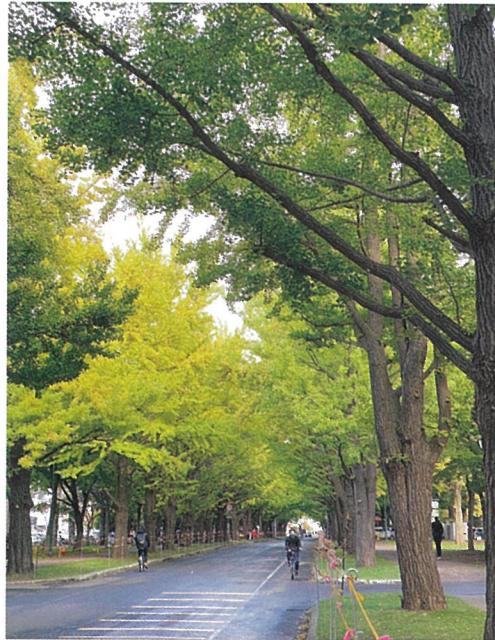


街に行く

第155回 北海道 Hokkaido

これも日本ですね



さっぽろ羊ヶ丘展望台のクラーク博士像

プライベートで北海道を満喫してきました。

旅の発端は、義理の叔父が85歳を超えて北海道にリターンしたもので、その様子をみにいこうという思い立ちでした。無謀と思われるかもしれません、叔父の移住は北海道出身の奥さんの希望によるもの。ご兄弟が住む場所のちかくで余生を過ごしたいという願いを叶えるためなのです。

今回の「街に行く」では、彼らが移住した札幌をメインに小樽と函館へ足を延ばしています。

札幌では、はじめに「大倉山のジャンプ場」をみました。熟年世代が思い出すのは冬季オリンピック。ジャンプで日本の神風隊(笠井・金野・青地)が金銀銅のメダルを独占したのには当時子供ながら心が躍りましたが、実際にジャンプ台を前にすると、こんなに高くきつい傾斜をよくも飛んだものだと驚きます。

次はクラーク博士像がある「さっぽろ羊ヶ丘展望台」。単にだだっ広い草原のなかに博士像があり、羊が放し飼いにされているだけ。羊は草原一面ではなく一部。普通ならもっと展示物を作ると思うのですが、そんなおおらかさと優雅さと壮大さが北海道なのでしょう。クラーク博士の何よりの功績は、「Boys be ambitious」(少年よ、大志を抱け)の通り、新島襄・新渡戸稻造・内村鑑三など、後の日本を支える若者達にスピリットを植えつけたこと。「時計台」や「札幌農学校(北海道大学)」にも彼の銅像があるのをみると、この街の近代文化の原点でもあったのでしょう。最後に博士が教鞭を執った北海道大学も歩きました。キャンパスはアメリカの大学を訪ねているかと錯覚するほどに大きく、半日では回り切れない規模です。しかも、とても寒い! どうやら北海道の秋をなめていたようです。

ですが通り一面の銀杏並木は見事なものでした。この風景に惹かれ翌日もキャンパスを訪れましたが、次回札幌に来た時もきっと訪れるでしょう。設立当時の歴史的建造物が多く現存しており、キャンパス全体が壮大な自然中の博物館のようです。すっかり魅了されてしまいました。

叔父さん、叔母さん、親戚の皆さん、お元気で!

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エースト・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。